

5月5日 ヨハネによる福音書 16章 25～33節

「わたしはひとりではない」

今日の個所は、イエス様が十字架に着く直前、もはやたとえ話は必要ないと、弟子たちに直接その知恵を授けている場面です。25節でイエス様が言うように、これまで多くのことを、イエス様は弟子たちや集まった群衆に対してたとえ話を用いて話してきました。「わかる人はわかるように、わからない人にはわからないままであるように」用いられたたとえ話ですが、もはやたとえ話を用いらずに直接あなたたちに伝える時が来た、とイエス様は言います。ここでイエス様が言うその日とは、イエス様の十字架と復活によって人と神様とのつながりが取り戻される時のことです。その時にはイエス様が弟子たちの代わりに願ってくれるのではなく、神様自身が人々の祈りを聞いてくれることになります。そして、ここまでイエス様に注がれていた神様の愛が、弟子たちにも同じように注がれていたことを知るようになるのです。

そう語るイエス様に対して、弟子たちも「今イエス様のことを信じることができるようになった」と答えます。これまでイエス様の言葉を一番近いところで聞き続けていた弟子たちが「ようやく信じることができた」ことに対してイエス様も若干呆れている様子ですが、しかし弟子たちの「信じます」という言葉に反して、イエス様が逮捕されてからの弟子たちの行動がそうならないことをイエス様は知っていました。弟子たちは散り散りになり、イエス様をあれだけ慕っていたペテロでさえもイエス様のことを三度「知らない」と、強く否定してしまうことを理解していました。しかし、そのようにイエス様の周りからすべての人がいなくなったとしても、イエス様は孤独ではありません。神様のみ旨に従って歩むすべての道の上には、神様の守りが確かにあります。そして、それは迫害を受ける未来の弟子たちにも向けられた言葉です。イエス様の言葉に従い、イエス様の平和を実現するためにおこなう全ての業の上には、イエス様の守りと神様の愛が注がれます。その勝利が約束されているからこそ、迫害に負けることなく勇気を出して信仰を守るように、と励ましの言葉がイエス様から語られています。

今日の個所のこの御言葉を聞くとき、私たちもまた一人ではないことを教えられます。イエス様が共にいて、神様が共にいて、そしてその兄弟姉妹である私たち教会の一人一人もまた、ともにこの時代を生きるものとして同じ歩みを続けているのです。

空の星々が、姿を変えずにイエス様の時代から空にあり続けたように、太陽も月も、代わらずこの地球と共にあるように、私たちの神様は、そしてイエス様は、この世界の初めから終わりまで、私たちの人生の初めから終わりまで、私たちと共にいて、私たちのことを見てくれているのです。私たちの行う業を見て喜び、私たちが孤独や苦しみを感じるその時にはそばで寄り添い、私たちが気力を失い一歩も動くことが出来なくなったその時には、私たちのことを背負って、その苦しみを共に負ってくれるのです。そのように、私たちから孤独が取り去られて、どんな時も神様に力づけられていると知っているからこそ、私たちはどんなことに対しても、勇気をもって踏み出すことが出来るのです。

この世界の美しさを知り、この世界を作り上げた神様のすばらしさを知り、その素晴らしさを少しでも多くの方と分かち合う、この信仰の歩みを、これからも続けていきましょう。

今日の説教箇所：ヨハネによる福音書 16 章 25～33 節

- 25: 「私はこれらのことを、たとえを用いて話してきた。もはやたとえによらず、はっきり父について知らせる時が来る。その日には、あなたがたは私の名によって願うことになる。私があるがたのために父に願ってあげよう、とは言わない。父ご自身が、あなたがたを愛しておられるのである。あなたがたが、私を愛し、私が神のもとから出て来たことを信じたからである。私は父のもとから出て、世に来たが、今、世を去って、父のもとに行く。」弟子たちは言った。「今は、はっきりとお話しになり、少しもたとえを用いられません。あなたがすべてのことをご存じて、誰にも尋ねられる必要がないことが、今、分かりました。これで、あなたが神のもとから来られたと、私たちは信じます。」イエスはお答えになった。「今、信じると言うのか。見よ、あなたがたが散らされて、自分の家に帰ってしまい、私を独りきりにする時が来る。いや、すでに来ている。しかし、私は独りではない。父が、共にいてくださるからだ。これらのことを話したのは、あなたがたが私によって平和を得るためである。あなたがたには世で苦難がある。しかし、勇気を出しなさい。私はすでに世に勝っている。」